

American DQ®

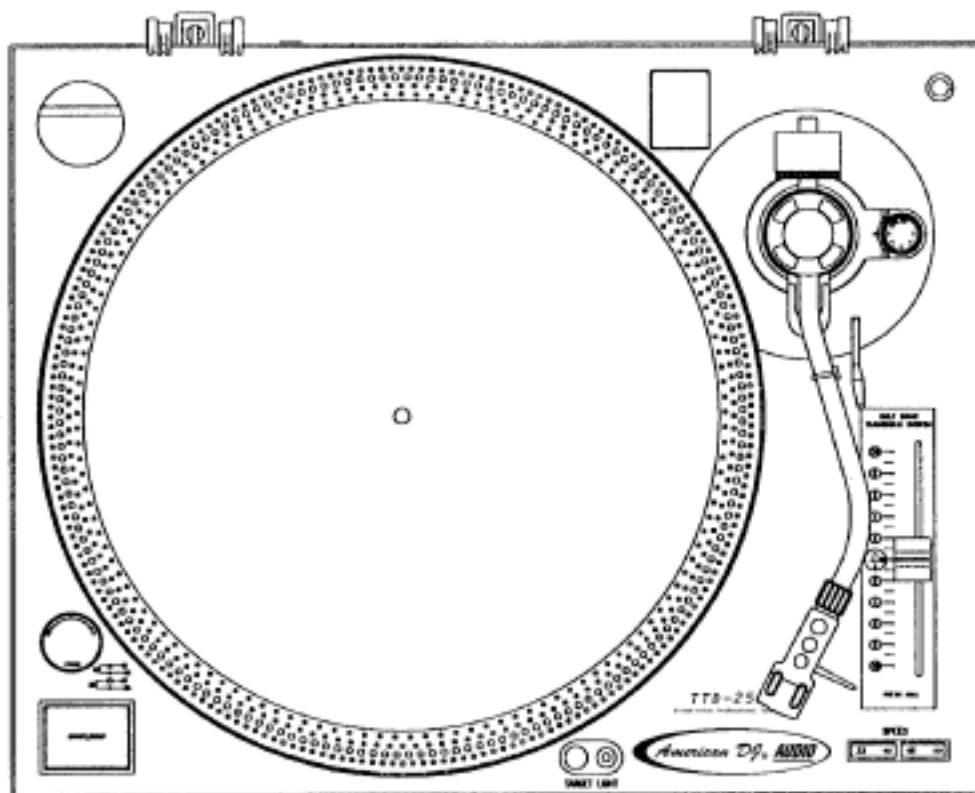
TTD2500

Direct-Drive Professional Turntable

Belt-Drive Professional Turntable

TTB2010

日本語取扱説明書



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

この度は American DJ のターンテーブルをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

ご使用前には簡単な本体の組み立てが必要です。必ず説明書をお読み下さい。

注意：本製品は水分にとっても弱いので雨や湿気には十分気をつけて下さい。

■ 各部の名称

1. 45 回転レコード盤用アダプター
2. ターンテーブル・プッター
3. センター・スピンドル
4. 電源スイッチ
5. スタート/ストップ・ボタン
6. ストロボ・ドット
7. ターゲット・ライト
8. センター・クリック (ピッチ ± 0)

回転速度 LED *TTD2500 のみ*

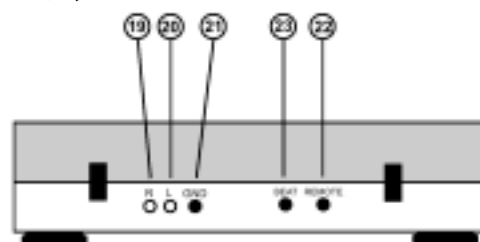
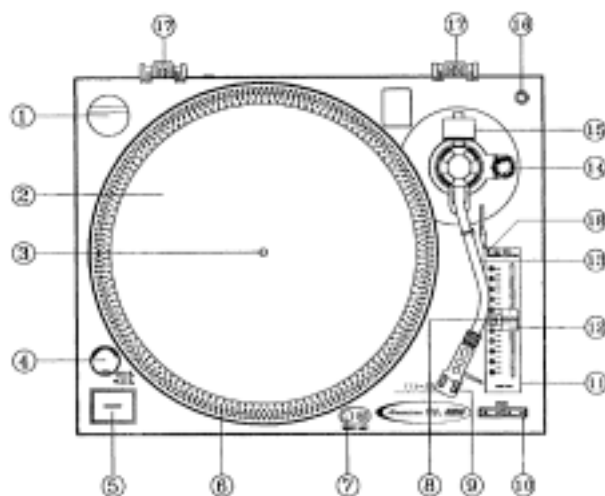
緑色 LED :

ピッチ・コントロール(11)がセンター・クリックの位置 (フェーダーがカチッと止まる位置) にあると点灯し、正常な回転速度でターンテーブルが回ります。

赤色 LED :

ピッチ・コントロール(11)がセンター・クリックの位置にない場合に点灯。

9. ヘッド・シェル
10. スピード選択ボタン (33 回転、45 回転)
11. ピッチ調節 ($\pm 10\%$)
12. ピッチ・コントロール・フェーダー
13. トーン・アーム
14. アンチ・スケート・ノブ
15. カウンター・ウェイト
16. スペア・フォノカートリッジ・スロット
17. カバー用蝶つがい
18. トリム・コントロール (ピッチ調節レンジを微調整) *TTD2500 のみ*
19. R ピン出力端子
20. L ピン出力端子
21. アース
22. スタート/ストップ・リモート・コントロール用 1/4 インチ出力端子
23. ビート・アナライザー用ビート出力端子 *TTD2500 のみ*



■ ご使用前に

下記の付属品が全て含まれていることを確認して下さい。

- ・ターンテーブル・プラッター ・スリップ・マット ・7インチレコード用アダプター
- ・カバー ・カウンター・ウェイト ・ヘッドシェル ・取扱説明書

注意

- ・組み立てが完了する前に電源コンセントを接続しないで下さい。
- ・電源を入れる前に、接続方法と電圧が正しいかを再度確認して下さい。コンセントの抜き差しの際には必ず電源を切して下さい。
- ・本商品をご使用前には取扱説明書をよくお読み下さい。お読みになった後は保証書と一緒に大切に保管して下さい。

重要!! TTB2010 ベルトドライブ・タイプは

ターンテーブルを正常に作動させる為にはラバーベルトをモーターに取付けることが必要です。ターンテーブル・プラッター(2)を本体のセンター・スピンドル(3)に取付けた跡、プラッター上の大きな窓を本体右上の位置にして下さい。その窓からモーターが見える位置にして、ラバーベルトと取付けて下さい。(ラバーベルトは、ターンテーブル・プラッターの裏側に取付けてあります。)

■組み立て方

1. ビニール・カバーのかかっている本体を箱から取出し、ビニール・カバーを取除いて下さい。
2. 45RPM アダプターを本体の左上にセットして下さい。
3. ターンテーブル・プラッターをセンター・スピンドルにセットして下さい。
4. スリップ・マットをターンテーブル・プラッターにのせて下さい。
5. カートリッジの取付け方法
カートリッジの取付けの際にはカートリッジに付属している説明書を参照して下さい。
取付けの際にはプロテクターで針先を保護して下さい。
(1) カートリッジの端子にリード・ワイヤーを接続して下さい。カートリッジ端子のほとんどが色分けされていますので、同じ色の端子に接続して下さい。

白 (L+)	L チャンネル+
青 (L-)	L チャンネル-
赤 (R+)	R チャンネル+
緑 (R-)	R チャンネル-

(2) カートリッジをヘッドシェルに取付けカートリッジのネジを締めて下さい。
6. ヘッドシェルをトーンアームの先にセットして下さい。ヘッドシェルを水平に固定した状態でロック・ナットを反時計周りに回して下さい。
7. カウンター・ウェイトをトーンアームのリア・シャフト部にスライドして取付け、軽く回し入れて下さい。
8. 水平ゼロ・バランスと針圧の調整
 - (1) 針用のプロテクターを外して下さい。針先に触れないように気をつけて下さい。
 - (2) キュー・レバーを低い位置にして下さい。
 - (3) アーム・クランプを外しアームをアーム台からリリースして下さい。
 - (4) トーンアームがバランス良くほぼ水平になるように、カウンター・ウェイトを回して位置を設定して下さい。

- (5) トーンアームをアームクランプで再度締めて下さい。
- (6) カウンター・ウェイトが動かない状態にして、トーンアームのリアシャフト部のセンターラインに針圧リングの「0」ゼロが来るようにリングを回し調節します。
カウンター・ウェイトを反時計回りに回し、使用している針の針圧に合わせます。ウェイトの数値は別売りのカートリッジの説明書を参考に設定して下さい。
9. アンチ・スケート・コントロール・ノブを針圧を同じ値にセットして下さい。
10. 本体にカバーをセットして下さい。

■ 本体の設置方法

- ・直射日光や発熱機材の近くには置かないで下さい。
- ・湿気やほこりの多い場所には置かないで下さい。
- ・カートリッジは、スピーカーから出力される音により発生する床を伝わる振動や空気の振動を拾い、ハウリングの原因となる場合があります。振動のない安定した場所に設置して下さい。
- ・本体の裏には高さ調節のための足がついています。本体が水平になるように高さを調節して下さい。

■ 接続方法

1. 電源コードをアンプのリア・パネルにある AUX 電源出力端子、または家庭用のコンセントに接続して下さい。
2. 本体出力端子を American DJ ミキサー、又はレシーバーの PHONO 端子に接続して下さい。

<u>出力端子</u>		<u>ミキサー（レシーバー）</u>
L 出力(白)(18)	→	L チャンネル入力
R 出力(赤)(19)	→	R チャンネル入力
アース(21)	→	アース(GROUND)

注意

アース端子をミキサー（又はレシーバー）にしっかりと接続して下さい。しっかりと接続しないとハムノイズの原因となります。

■ 操作方法

1. 電源スイッチ(4)を押し電源を入れて下さい。スピード・インジケータ(8)とストロボ・インジケータが点灯します。
2. レコードをスリップ・マットにのせて下さい。真中の穴が大きな 45 回転盤の場合には 45 回転レコード盤用アダプター(1)をセンター・スピンドルにセットして下さい。
3. レコードに合うようにスピード(10)を調節して下さい。
4. 針用プロテクターを外しアーム・クランプを外します。
5. キュー・レバーを上げトーン・アームが下がらない状態にします。
6. スタート/ストップ・ボタン(5)を押すとターンテーブル・プラッターが回転し始めます。
7. レコード上の針を降ろしたい位置までトーン・アームを水平に移動します。
8. キュー・レバー下げるとトーン・アームがレコード盤まで下がり演奏が始まります。
9. 演奏が終わったらキュー・レバーを上げてトーン・アームをアーム・クランプまで移動します。
10. スタート/ストップ・ボタンを押すとプラッターの回転が止まります。電源スイッチ

を押すと電源が切れます。

- ・ サスペンド・プレイ

演奏中にキュー・レバーを上げるとカートリッジの針先がレコード盤から離れます。

- ・ ターゲット・ライト

本体にはターゲット・ライト (7) があり演奏中の針先を照らします。ターゲット・ライト・ボタンを押すと、ライトの位置が上がり針先を照らします。ライトを使用しない場合には位置を下げて下さい。

回転スピード調整

- ・ ピッチコントロールがセンター・クリックの位置 (フェーダーがカチッと止まる位置) にある場合は、ターンテーブルは正しい速度で回転します。TTD2500 はこの状態でピッチコントロール・フェーダー (12) の左側に位置する LED ディスプレイ (8) が緑色に点灯します。
- ・ 回転スピードは、ピッチコントロール・フェーダー (12) により 10% の加速/減速が出来ます。TTD2500 はフェーダーを動かすと LED (8) が赤く点灯します。実際のスピードとピッチコントロールが相互に対応しない場合にはトリムコントロール (18) を使って調整可能です。トリムコントロール (18) の穴にドライバーを差し込み、時計回りで加速、反時計回りで減速となります (+/-2%)。この調節でレコードの回転を極端に速く、又は遅くすることも可能です。
- ・ ターンテーブルの端にあるストロボライト (6) でスピードをモニターできます。

リモート・コントロール・スタート/ストップ (21)

スタート/ストップ機能は別売りのスイッチによりリモート・コントロールが可能です (フォン端子接続)。

ビート・インジケータ (22) TTD2500 のみ

ビート出力端子からモノラル信号を別売りのビート・アナライザーに送信できます (ピン端子接続)。

■ メンテナンス

- ・ 針にほこりが溜まらないように柔らかいブラシ等で定期的に掃除をして下さい。
- ・ 音が歪んだりノイズが入るときには針をチェックして下さい。針が古くなった場合には新しいものと交換して下さい。
- ・ カバーや本体は柔らかい乾いた布で拭いて下さい。
- ・ アルコール、シンナー、ベンジン等の揮発性のものを使用しないで下さい。本体の塗装のはがれや光沢を失う原因となります。